

**令和7年度第1回
多摩市地域福祉計画推進市民委員会
中間見直し 基本資料**

日時:令和7年7月7日(月)18時～20時

場所:多摩市役所第二庁舎会議室

目次

議事次第・委員名簿	… 2
地域福祉計画 全体スケジュール(～令和11年度)	… 4
地域福祉計画 詳細スケジュール(令和7年度)	… 5
令和6年度 of 取組(振り返り)	… 6
令和7年度 of 取組事項(中間見直しにおける検討事項)	… 7
地域福祉計画の素案について	… 11
評価方法の見直しについて①	… 12
評価方法の見直しについて②	… 13
評価部会と推進市民委員会の連携について	… 14
(参考)評価方法の見直しについて③	… 15
(参考)評価方法の見直しについて④	… 16
地域福祉計画の構造・個別計画の役割	… 17
現在の多摩市地域福祉計画の構造	… 18
中間見直し後の多摩市地域福祉計画の構造案 ※アウトカムを記載	… 19
ロジックモデル案①(高齢者のフレイル予防)	… 20
例)フレイル予防事業の枠組みと関連事業について	… 21
ロジックモデル案②(障がい者の差別解消)	… 22
(参考)1月委員会時のワークショップシート①(高齢者のフレイル予防)	… 23
(参考)1月委員会時のワークショップシート②(障がい者の差別解消)	… 24

議事次第・委員名簿

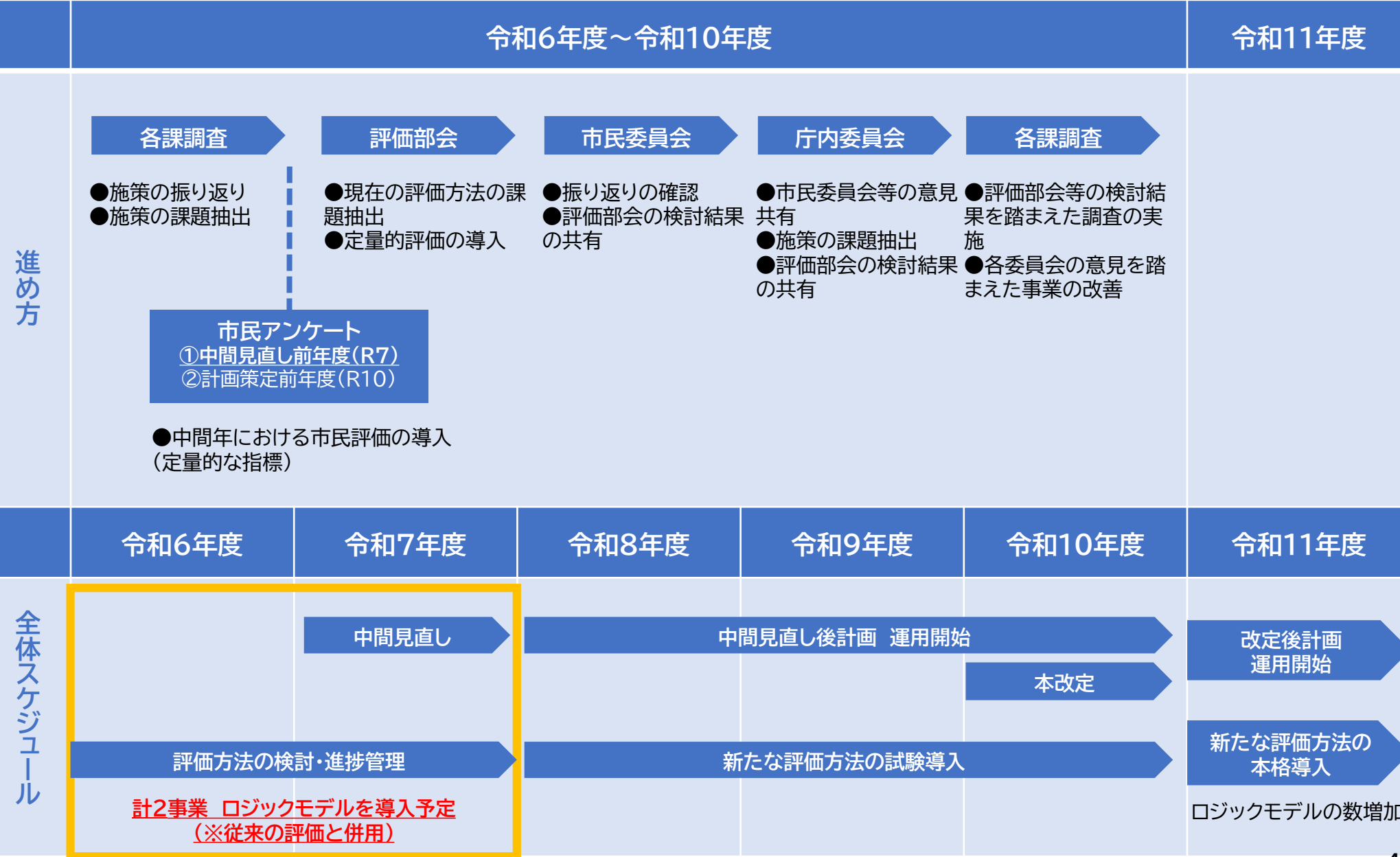
獲得目標		
- 令和7年度のスケジュール、中間見直しの取組事項を確定する。 - 地域福祉計画の素案、評価方法の見直しについて議論する。		
議事内容		
①令和7年度スケジュール確認、中間見直しの方向性共有(10分)	②第六次総合計画との整合確認(10分)	
③市民アンケート調査の概要報告(15分)	④地域福祉計画 素案報告(65分) ※評価方法の見直し含む	
⑤再犯防止推進計画 進捗状況・骨子案(15分)		
配布資料		
資料1 地域福祉計画中間見直し 基本資料	資料2 第六次多摩市総合計画 構成比較表	
資料3 市民アンケート調査報告書(案)	資料4 地域福祉計画 素案	
資料5～ 再犯防止推進計画 進捗状況		
委員名簿		
氏名	ふりがな	所属
室田 信一	むろた しんいち	東京都立大学人文社会学部准教授
鈴木 裕介	すずき ゆうすけ	明星大学人文学部教授
小山 貞子	こやま ていこ	多摩市民生委員協議会
千葉 胤昌	ちば たねあき	多摩市自治連合会
荒井 永理	あらい えり	一般社団法人祥鶴
中村 奈美	なかむら なみ	まち育てネットワーク・関一
畔上 なつ美	あぜがみ なつみ	多摩市社会福祉協議会
鳶田 智仁	しまだ ともひと	京王電鉄株式会社

次第1 令和7年度スケジュール確認、中間見直しの方向性共有(10分)

▼ご確認・ご意見いただきたい点

- ・ 令和7年度のスケジュール
- ・ 中間見直しの取組事項について、漏れや疑問点等がないかご意見いただきたい

地域福祉計画 全体スケジュール(～令和11年度)



地域福祉計画 詳細スケジュール(令和7年度)

令和7年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	翌年度	備考
計画の推進	推進市民委員会 【評価部会】 (外部)		所管課調査 (前年度取組状況)		6/19 ・評価部会の役割等の確認 ・新たなロジックモデル案の 確認					11/13 ・ロジックモデル案の決定 ・後期計画の期間内の評 価方法の共有					すべて18時から20時
	推進市民委員会 (外部)				7/7 ・社会情勢を踏まえた見 直し事項の整理 ・第六次多摩市総合計画 との整合確認 ・素案の検討 ・再犯計画の進捗報告・骨 子案	8/4 ・第1回を踏まえた素 案検討		9/29 ・市計画と社協計画の 進捗報告 ・重層的支援体制整 備事業実施計画の整 理 ・素案決定 ・再犯計画の素案報	11/6 ・素案決定 ※10月初旬に決定 しなかった場合の 予備日		1/19 ・パブリックコメントを 受けた修正内容の報告 ・原案の決定 ・再犯計画の原案報告 (仮)				すべて18時から20時
	庁内委員会 (内部：課長級)				7/18 ・社会情勢を踏まえた見直し 事項の整理 ・第六次多摩市総合計画との 整合確認 ・再犯防止推進計画の進捗 状況・骨子案 ・素案検討	8/13 ・第1回を踏まえた 素案検討		10/23 ・市計画と社協計画 の進捗報告 ・重層的支援体制整 備事業実施計画の整 理 ・素案決定			1/26 ・パブリックコメントを 受けた修正内容の報告 ・原案の決定				すべて10時から12時
	健康福祉推進本部 (内部：部長級)				7/24 策定状況の共有、 素案 (報告)				11/13 素案 (付議)		2/3 原案 (付議)				
	経営会議								11/27 素案 (協議)		2/17 原案 (協議及 び決定)				
	その他	アンケート調査 集計・分析								パブリック コメント			議会報告		

令和6年度の取組(振り返り)

項目	取組内容
評価方法の見直し	➤ <u>ロジックモデル案の作成～議論(高齢支援課・障害福祉課 計2事業)</u> ・ 地域福祉計画の基本施策に沿って、ロジックモデル作成対象を2つ抽出し、各課と調整して作成 ・ 評価部会(6・11月)・推進市民委員会(7・1月)・庁内委員会(8・1月)にて確認 ➤ <u>評価方法に関する講義(武蔵野大学 清水潤子講師)の実施(11月)</u> ・ 令和6年11月の評価部会において、武蔵野大学の清水潤子講師をお招きし、関係課を含めて評価方法に関して講義いただいた。 ・ プログラム評価の概要、プログラム評価の向き不向き等について講義、質疑応答を行った。 ➤ <u>ロジックモデルに関するワークショップの実施</u> ・ 令和7年1月の推進市民委員会において、市で作成したロジックモデル案について、ワークショップを実施。 ・ 具体的には、最終アウトカムについて、市と市民との認識に相違がないかどうか、どのような視点があるとよいか等について小グループで議論を実施。
市民アンケート	➤ <u>市民アンケート実施</u> ・ 2月から3月にかけて、市民アンケートを実施。資料3にて、後ほどご説明いたします。

令和7年度の取組事項(中間見直しにおける検討事項)

検討事項		現在の検討状況
第六次多摩市総合計画との整合の確認 (資料2参照)		・ 現行の地域福祉計画は令和5年3月に策定 ・ 一方、第六次総合計画は地域福祉計画策定後の令和5年11月に策定 ・ 当初は両計画の策定を同時期に予定していたが、第六次総合計画の策定が後ろ倒し ・ そのため、中間見直しにおいて、方向性の違いや不足している考え方等を確認する。
評価方法の見直しに向けた課題への取組 (本資料7ページ以降を参照)		下記①～④、次ページ以降を参照
①	地域福祉計画での評価の進め方・全体像の提示	地域福祉計画の構造と個別計画の役割、目標設定のイメージ共有(12～16ページ参照) これにより、最終アウトカムの粒度の統一も図る。
②	市職員の理解促進	事業担当者の知識習得や対外的なロジックモデルの説明を目標に、事務局によるロジックモデルに関する講義や評価部会への参加を検討。
③	地域福祉計画における目標達成指標(KGI)の設定方法	・ 現状では、設定根拠や個別事業の効果測定に課題 ・ そのため、世論調査や地域福祉計画アンケート調査の指標を用いる想定 ・ 各事業のインパクト測定が難しいため、将来の目標について適切な設定方法に課題
④	ロジックモデルの作成範囲	・ 導入対象事業は計2事業。各事業について、対象者別に事業を整理するとともに、他課で実施している関連事業を整理する ・ ロジックモデルの作成は、プログラム評価には一定の境界が必要であり、所管での評価しやすさの観点からも、まずは所管の事業の範囲内に留めたい。 ※事業実施上は関連事業の把握、各事業の連携が必要。



中間見直し時に反映。素案は資料4参照。

次第2 第六次総合計画との整合確認(10分)

※資料2参照

▼ご確認・ご意見いただきたい点

- ・ 地域福祉計画において重視すべきと考える点について、ご意見いただきたい。

次第3 市民アンケート調査の概要報告(15分)

※資料3参照

▼ご確認・ご意見いただきたい点

- ・ 前回から好転した項目もあるが、地域活動の状況等はそれほど変化がない状況。
→調査項目や実施方法等についてご意見いただきたい。

次第4 地域福祉計画 素案(65分)

※資料1の11ページ以降、資料4参照

▼ご確認・ご意見いただきたい点

- ・ 目指す方向性や基本理念など大枠は変更しない方針
→アンケート結果や活動で感じる課題についてご意見いただきたい
- ・ 評価方法の見直し
→評価方法へのご意見、疑問点についてご意見いただきたい
- ・ より事業の過程が分かるよう、地域福祉計画に反映する想定
→どのように反映することが望ましいか、ご意見いただきたい

地域福祉計画の素案について

(1)素案の見直し概要

- 本資料7ページ(令和7年度の取組事項(中間見直しにおける検討事項))にあるとおり、見直しの主な内容としては、①第六次多摩市総合計画との整合②評価方法の見直し の2点を想定している。
- 今回は中間見直しであることから、目指す方向性や基本理念等の大きな枠組みは変更しない方針。
- 第六次総合計画との整合は先ほどご確認いただいたため、評価方法の見直しについてご確認いただきたい。

(2)評価方法の見直し

- これまでご確認いただいているとおり、見直しの目的は、目標から逆算した事業設計と事業改善であり、この目的を達成するため、ロジックモデルを導入する。
- 現在の地域福祉計画では、目指す方向性や具体的な実施事業は掲載しているが、目指す方向性に向けて達成すべき中間目標や初期目標といった段階的な目標を設定していなかった。
- これを地域福祉計画にどのように表していくか、市民への分かりやすさと市内部の事業改善の双方を意識して、評価方法の見直しを反映していく必要がある。
- 詳細は次ページ以降でご説明する。

評価方法の見直しについて①

(1)現状

- ① 最終アウトカムから逆算した事業設計ができていない。
- ② アウトプット(取り組んだこと)を自己評価しているため、客観的かつ定量的な評価が出来ていない。
(=適切なデータが把握できておらず、市民にどのような影響を与えたかが分からない)
- ③ 適切な評価が行えていないため、事業改善につなげられていない

(2)方向性

- ① 市民や地域にもたらした影響を把握するため、事業の過程を可視化し、定量的な指標を導入する。
- ② 定量的な評価が困難な施策は、定性評価を実施する。
- ③ 評価の目的化、評価疲れが生じないように、一部の施策に客観的・定量的な評価を導入する。
(他自治体にヒアリングした際、評価疲れや評価の目的化といった状況があることが分かった。)



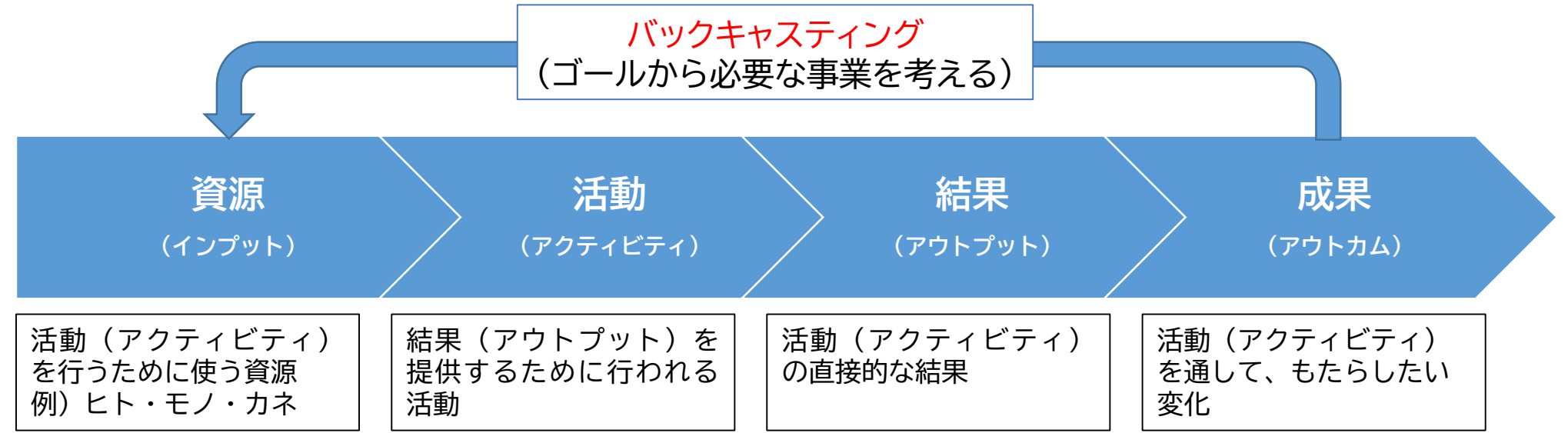
プログラム評価・ロジックモデルの導入

評価疲れを避けるため、特に重要と考えられる施策(※)に限定し、アウトカム指標を導入

※施政方針、総合計画等で掲げる施策、各課の手挙げにより抽出

抽出した施策について、地域福祉計画の基本施策6つの単位での作成を予定

評価方法の見直しについて②



メリット	デメリット
事業のゴール、目標の共通認識を持てる	事業の結果が自発性に依存するものは、評価しづらい →プログラムは意図した結果を引き起こすための介入であり、自然発生的な結果はプログラムによる影響かどうか不明確であるため
目標達成に必要な要素、手段を洗い出すことができ、役割分担が可能	プログラムの境界が不明瞭である場合、評価しづらい →上記同様、プログラムは意図した成果を得るための介入であり、一定の範囲設定が必要
想定を下回る成果であった場合、改善点を見つけやすい	
ゴールが変わらないため、担当者が変わってもブレがなくなる	

評価部会と推進市民委員会の連携について

(1) 評価部会の役割

- ① 事務局で作成したロジックモデル案の確認
- ② ロジックの整合性、目標や評価指標の設定が適切かどうかの確認
- ③ 推進市民委員会で市民委員に確認いただきたい内容の抽出

(2) 推進市民委員会の役割

- ① 事務局で作成したロジックモデル案の確認
- ② 評価部会で抽出した確認内容の議論
例) 高齢者がいつまでも地域で幸福感をもって暮らしている状態とは？市の考えと市民の考えに違いはないか
- ③ 市民委員のご意見を取り入れた事業プロセスの形成

(参考)評価方法の見直しについて③

(3)計画作成のプロセス

① 国通知

- 計画の達成状況を住民等に明確に示すためにも**具体的で計画の達成度の判断が容易に行える目標を示す必要がある**
- 地域福祉を推進する施策の中には、数値目標になじまないものもあるため、定性的な目標設定がなされることがある。しかし、その場合でも計画の目標は具体的であることを旨とすべきである
- 計画策定時点から評価の手法をあらかじめ明らかにしておく必要がある
- 相談件数等の定量的な変化やうまく進んでいないことのみに着目するのではなく、支援を必要とするものや支援者等、地域住民や関係機関の意識や行動にどれほどの変化を与えたのか、地域にどれほどの変化を与えたのか、連携がどれほどまでに動くようになったのか等、**直接的な成果として得られてきたものやその広がり(影響)にも着目し、そこを伸ばしていくという視点も重要**である

② 地域福祉計画の策定・改定ガイドブック

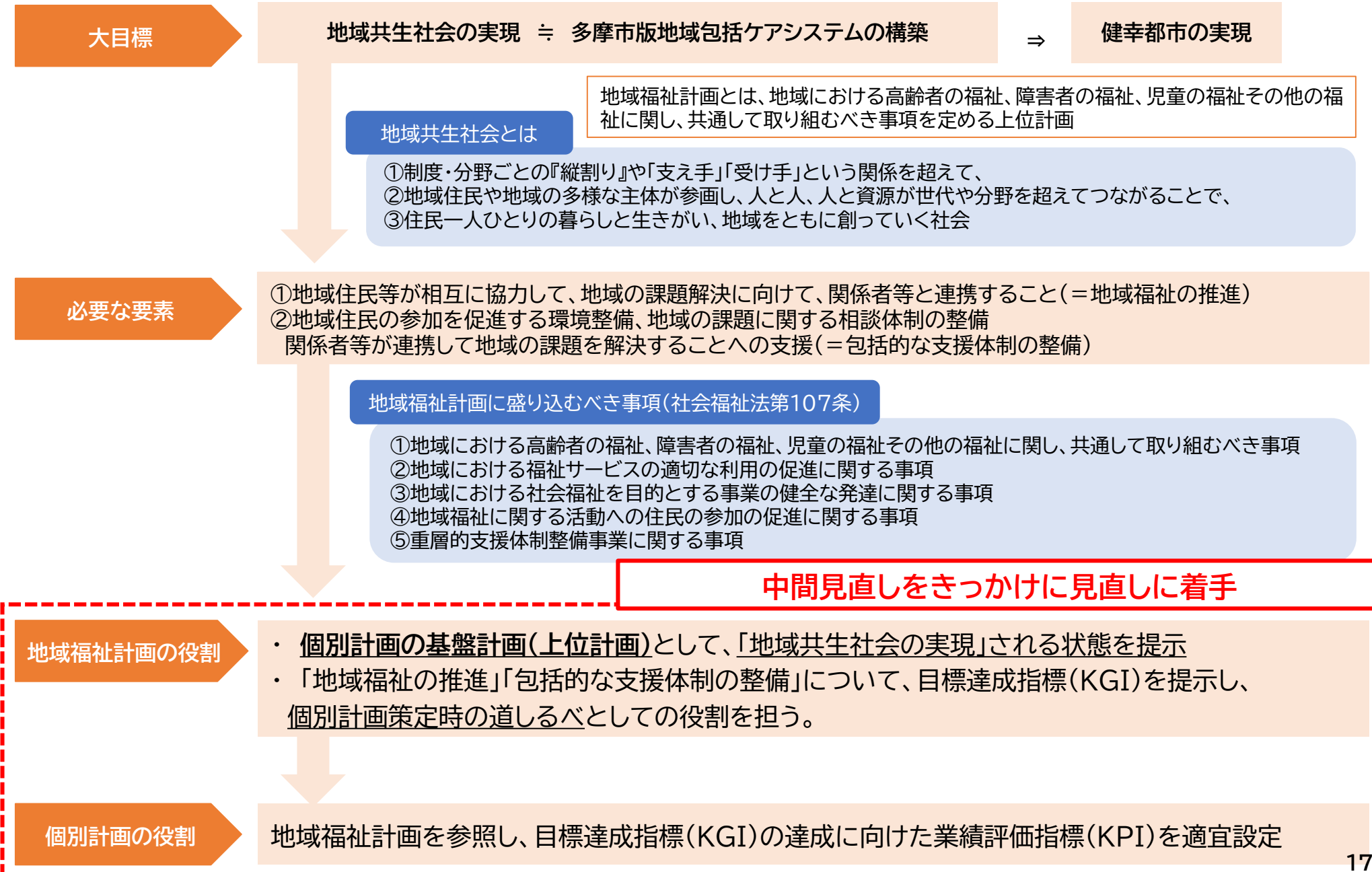
- 地域福祉計画にもとづき地域福祉を推進するうえで進行管理が不可欠。**評価実施体制の構築や定期的な評価の実施について、計画への明記の有無にかかわらず、どのように実効的な PDCA のしくみづくりと効果的な実施を図っていくか、各自治体での検討と取組が求められている。**
- 計画の実施状況を毎年定期的に点検することとし、このためには、例えば、地域福祉計画推進・評価委員会といった計画評価委員会のような、計画の進行管理を含む評価体制を確保し、計画策定時点から評価の手法をあらかじめ明らかにしておく必要があるとされている。
- 進行管理の仕組みの検討にあたっては、地域福祉計画のPDCAをどのように具体的に実施するかが重要。

(参考)評価方法の見直しについて④

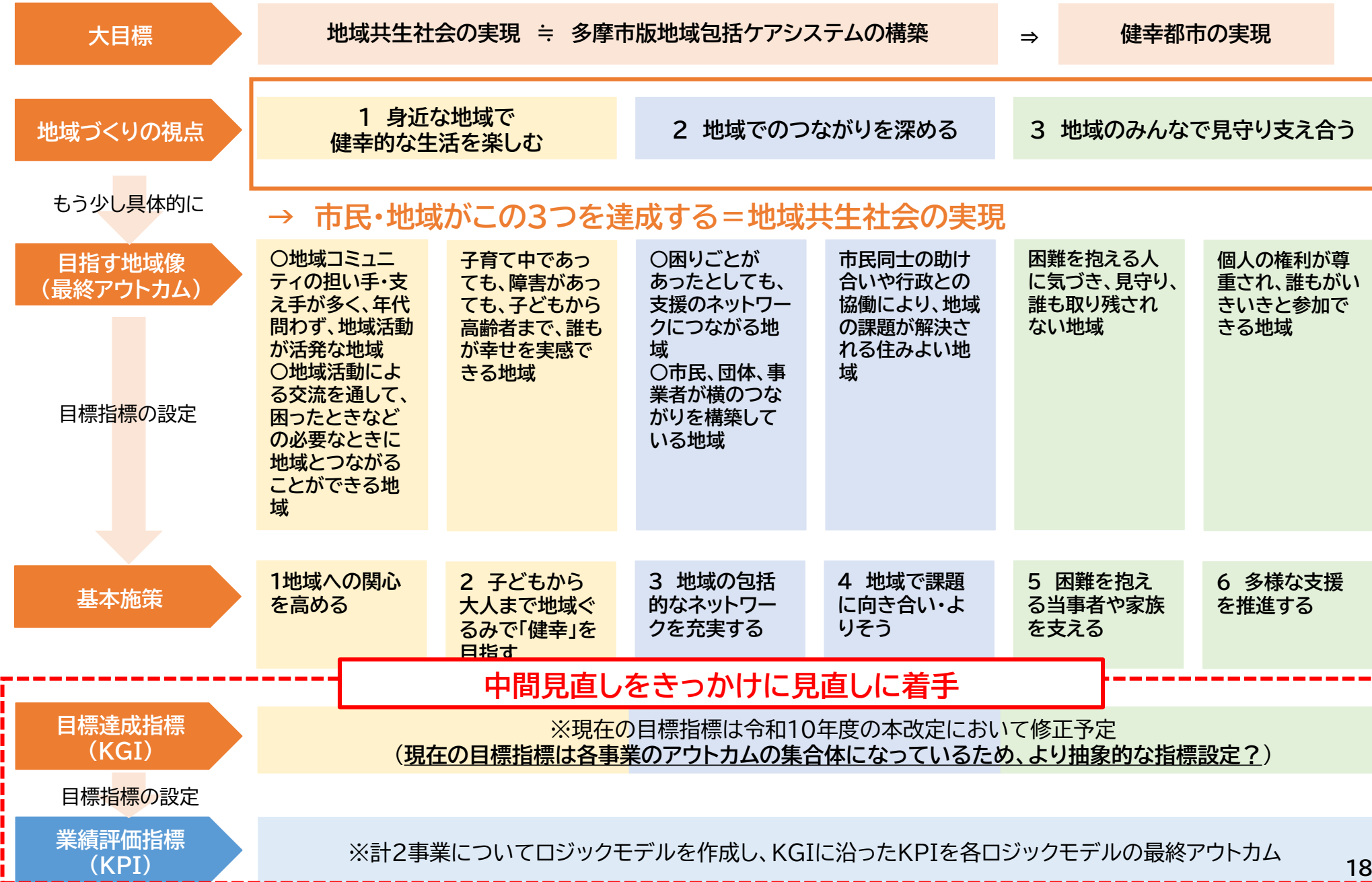
(3)計画作成のプロセス

- 地域福祉計画においては、住民主体の計画の目標(評価指標)とともに、行政計画として必要な評価の視点や指標を整理することが必要
- 住民主体の計画の目標(評価指標)は、いわゆるプロセス指標が重視されるべきですが、行政計画としてはプロセス指標ともに、定量化とアウトカム目標(指標)も求められている
- 評価指標の設定や評価の実施にあたっては、例えば、地域住民等との協働による地域生活課題を解決する事業・活動については、その結果や成果のみならず、プロセスの状況やプロセスから生じた地域や住民等の変化などにも着目することが重要
- 個別施策の目標(評価指標)の設定にあたっては、計画の達成状況を住民等に明確に示すためにも具体的で計画の達成度の判断が容易に行える目標を示すことが必要
- ただし、数値だけが全てではない。地域生活課題については、丁寧な事例検討を重ねるなど、具体的な課題を共有していかなければならないことが多くある
- 定量化になじまない事項については、定性的な目標設定を行うとともに、その内容は具体的なものとすることが重要
- 定量的な成果指標を設定することは、施策等の実効性と明快性を高めるとともに、客観的な検証・評価のもとに進行管理を行うために必要だが、それだけにとらわれると計画が数値だけのものになってしまう
- 評価の際には、相談件数等の定量的な変化やうまく進んでいないことのみに着目するのではなく、支援を必要とする者や支援者等、地域住民や関係機関の意識や行動にどれほどの変化を与えたのか、地域にどれほどの変化を与えたのか、連携がどれほどまでに動くようになったのか等、直接的な成果として得られてきたものやその広がり(影響)にも着目し、そこを伸ばしていくという視点も重要であることにも留意する

地域福祉計画の構造・個別計画の役割



現在の多摩市地域福祉計画の構造



中間見直し後の多摩市地域福祉計画の構造案 ※アウトカムを記載

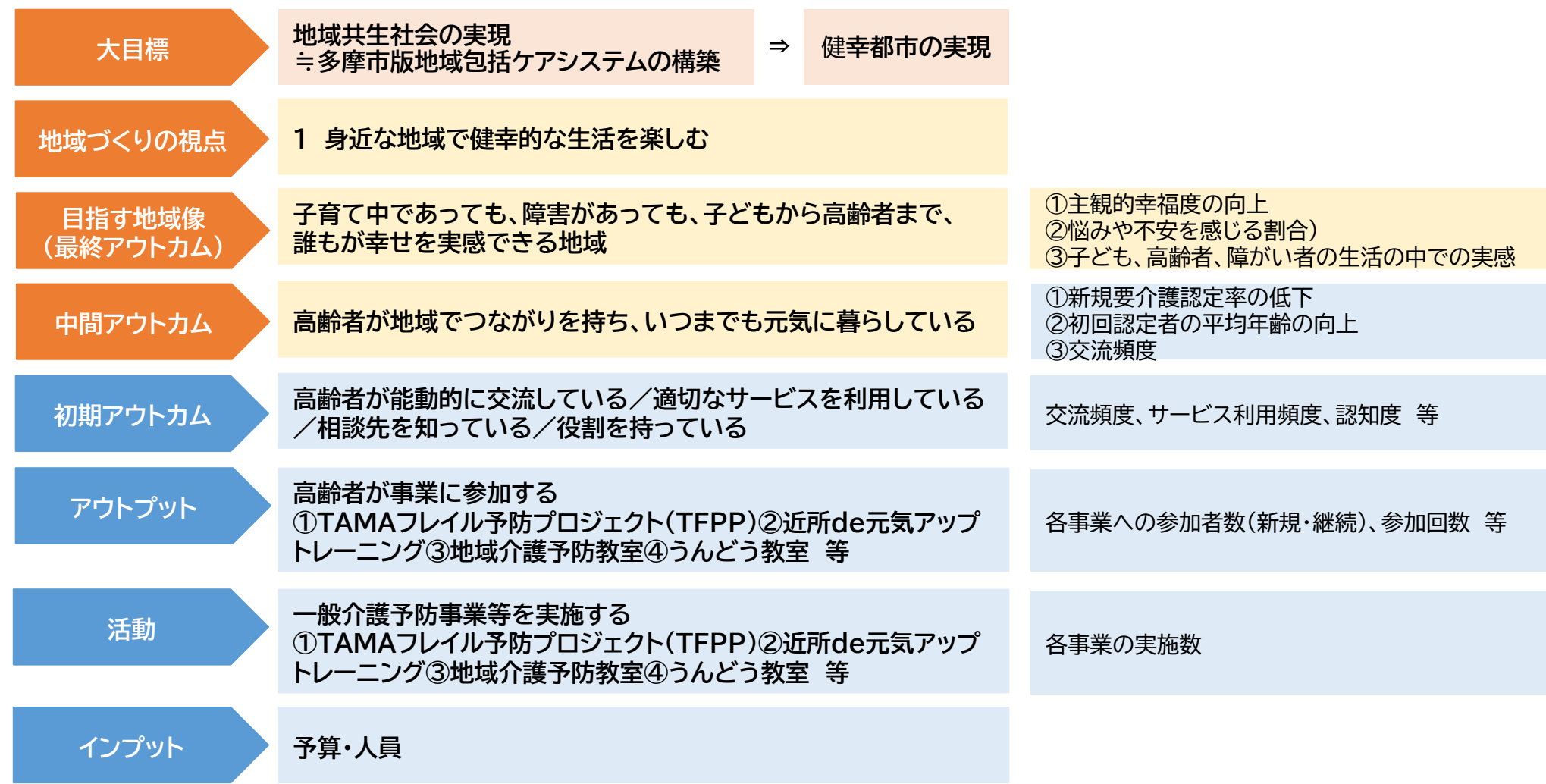
最終ゴール	地域共生社会の実現（≡多摩市版地域包括ケアシステムの構築）、健幸都市の実現							
目指す方向性	誰もが認め合い 支え合う みんな笑顔で健幸なまち 多摩							
地域づくりの視点	身近な地域で健幸的な生活を楽しむ		KGIを設定？		地域でつながりを深める		地域のみんなで見守り支え合う	
目指す地域像 （最終アウトカム）	地域コミュニティの担い手・支え手が多く、年代問わず、地域活動が活発な地域	地域活動による交流を通して、困ったときなどの必要なときに地域とつながることができる地域	子育て中であっても、障害があっても、子どもから高齢者まで、誰もが幸せを実感できる地域	困りごとがあつたとしても、支援のネットワークにつながる地域	市民、団体、事業者が横のつながりを構築している地域	市民同士の助け合いや行政との協働により、地域の課題が解決される住みよい地域	困難を抱える人に気づき、見守り、誰も取り残されない地域	個人の権利が尊重され、誰もがいきいきと参加できる地域
中間アウトカム	【地域】 ・市民主体の活動が広がっている ・世代や属性を問わず活躍している ・中間支援組織が構築されている 【個人】 ・地域について情報発信している ・自発的に参加、活動している	【地域】 ・市民主体の活動が広がっている ・人とのつながりがある、居場所がある 【個人】 ・生活の困りごとがない（少ない） ・困りごとを相談できている	【地域】 ・人とのつながりがある、居場所がある ・世代や属性を問わず活躍している 【個人】 ・元気な状態を維持している ・生きがいを持っている	【地域】 ・地域のネットワークが強い 【個人】 ・生活の困りごとがない（少ない） ・困りごとを相談できている	【地域】 ・地域のネットワークが強い 【個人】 ・地域について情報発信している ・自発的に参加、活動している	【地域】 ・地域のネットワークが強い 【個人】 ・地域について情報発信している ・自発的に参加、活動している	【地域】 ・地域のネットワークが強い ・人とのつながりがある、居場所がある 【個人】 ・生活の困りごとがない（少ない） ・困りごと気づいてもらえている	【地域】 ・社会参加が促進される 【個人】 ・社会的弱者が生きがいを持っている ・自己決定が尊重される
初期アウトカム	【地域】 ・行きたいときに行ける活動がある ・市民同士の情報交換が行われている ・多様な主体と交流している 【個人】 ・知り合いが増える ・多様な主体と交流している	【地域】 ・行きたいときに行ける場所がある ・市民同士の情報交換が行われている 【個人】 ・適切なサービスを利用している ・相談先を知っている	【地域】 ・行きたいときに行ける場所がある ・市民同士の情報交換が行われている ・多様な主体と交流している 【個人】 ・適切なサービスを利用している ・相談先を知っている	【地域】 ・行きたいときに行ける活動がある ・市民同士の情報交換が行われている ・多様な主体と交流している 【個人】 ・適切なサービスを利用している ・相談先を知っている	【地域】 ・行きたいときに行ける活動がある ・市民同士の情報交換が行われている ・多様な主体と交流している 【個人】 ・知り合いが増える ・多様な主体と交流している	【地域】 ・行きたいときに行ける場所がある ・市民同士の情報交換が行われている 【個人】 ・知り合いが増える ・多様な主体と交流している	【地域】 ・行きたいときに行ける場所がある ・市民同士の情報交換が行われている 【個人】 ・適切なサービスを利用している ・相談先を知っている	【地域】 ・社会的弱者への理解が浸透する ・社会的弱者との交流が増えている ・障がい者の外出時の支障がなくなっている 【個人】 ・社会的弱者が生きがいを持っている ・社会的弱者が適切なサービスを利用している
アウトプット	【地域】 ・活動場所がある ・多様な活動がある ・活動に参加する機会がある ・情報を入手できる 【個人】 ・活動に参加する ・情報を入手する	【地域】 ・地域に多様な活動、サービスがある ・活動に参加する／活躍する機会がある 【個人】 ・活動に参加する ・情報を入手する	【地域】 ・地域に多様な活動、サービスがある ・活動に参加する／活躍する機会がある 【個人】 ・活動に参加する	【地域】 ・地域に多様な活動、サービスがある ・活動に参加する／活躍する機会がある 【個人】 ・情報を入手する	【地域】 ・地域に多様な活動、サービスがある ・活動に参加する／活躍する機会がある 【個人】 ・活動に参加する ・情報を入手する	【地域】 ・地域に多様な活動、サービスがある ・活動に参加する／活躍する機会がある 【個人】 ・活動に参加する ・情報を入手する	【地域】 ・地域に多様な活動、サービスがある ・活動に参加する／活躍する機会がある 【個人】 ・活動に参加する ・情報を入手する	【地域】 ・社会的弱者について学ぶ機会がある ・社会的弱者と交流する機会がある 【個人】 ・活動に参加する ・情報を入手する
活動 ※個別シート	個別のシートに記載		①フレイル予防②差別解消について、簡易的なロジックモデルを作成？					

ロジックモデル案①(高齢者のフレイル予防)

KGIやKPIをどの程度地域福祉計画で管理すべきか？
→細かい指標は個別計画で管理すべきと考えている

※現在のイメージ

- 中間アウトカム以下を事業に分解。対象者別に分解して、KGIとKPIを設定。
- 詳細なロジックモデルは個別計画に落として、地域福祉計画では簡易的なロジックモデルを作成。(データは持つておく)

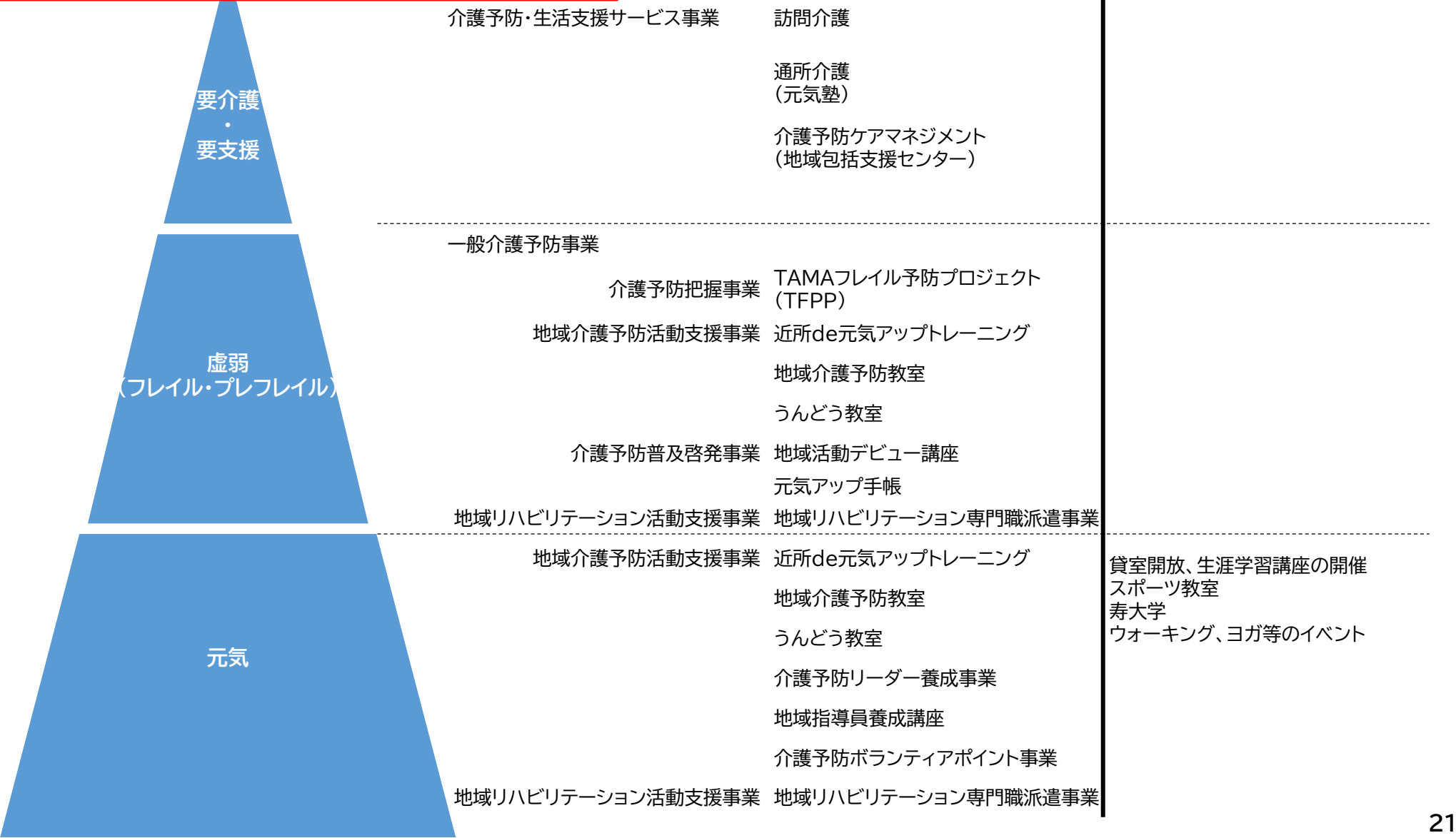


例)フレイル予防事業の枠組みと関連事業について

どこまで整理すべきか？
A:事業実施時に関連施策を意識するため、ロジックモデル
導入事業の関連事業までとする
B:中間アウトカムから考え、幅広く事業を捉えるべきか

高齢支援課

関連事業

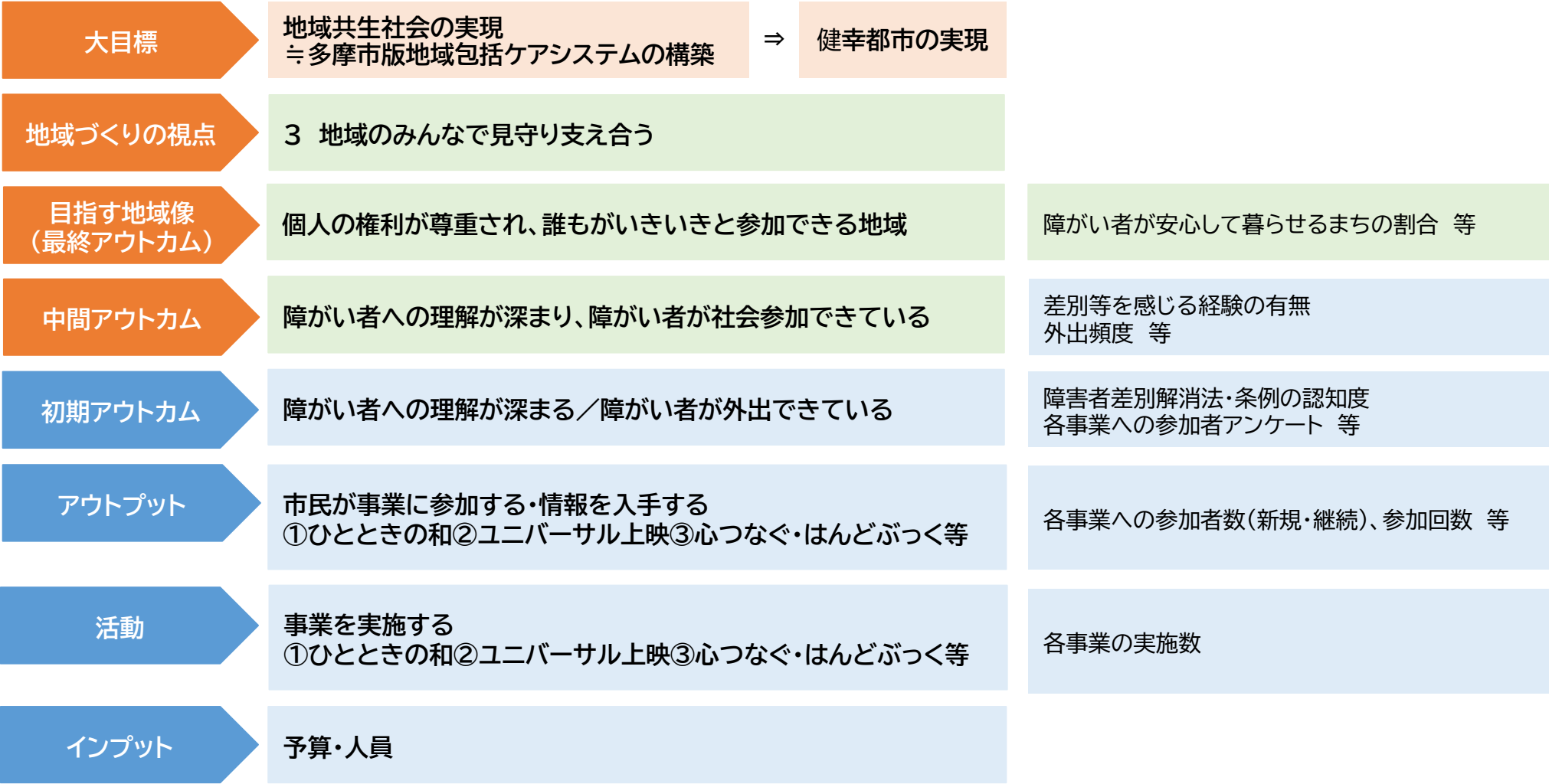


ロジックモデル案②(障がい者の差別解消)

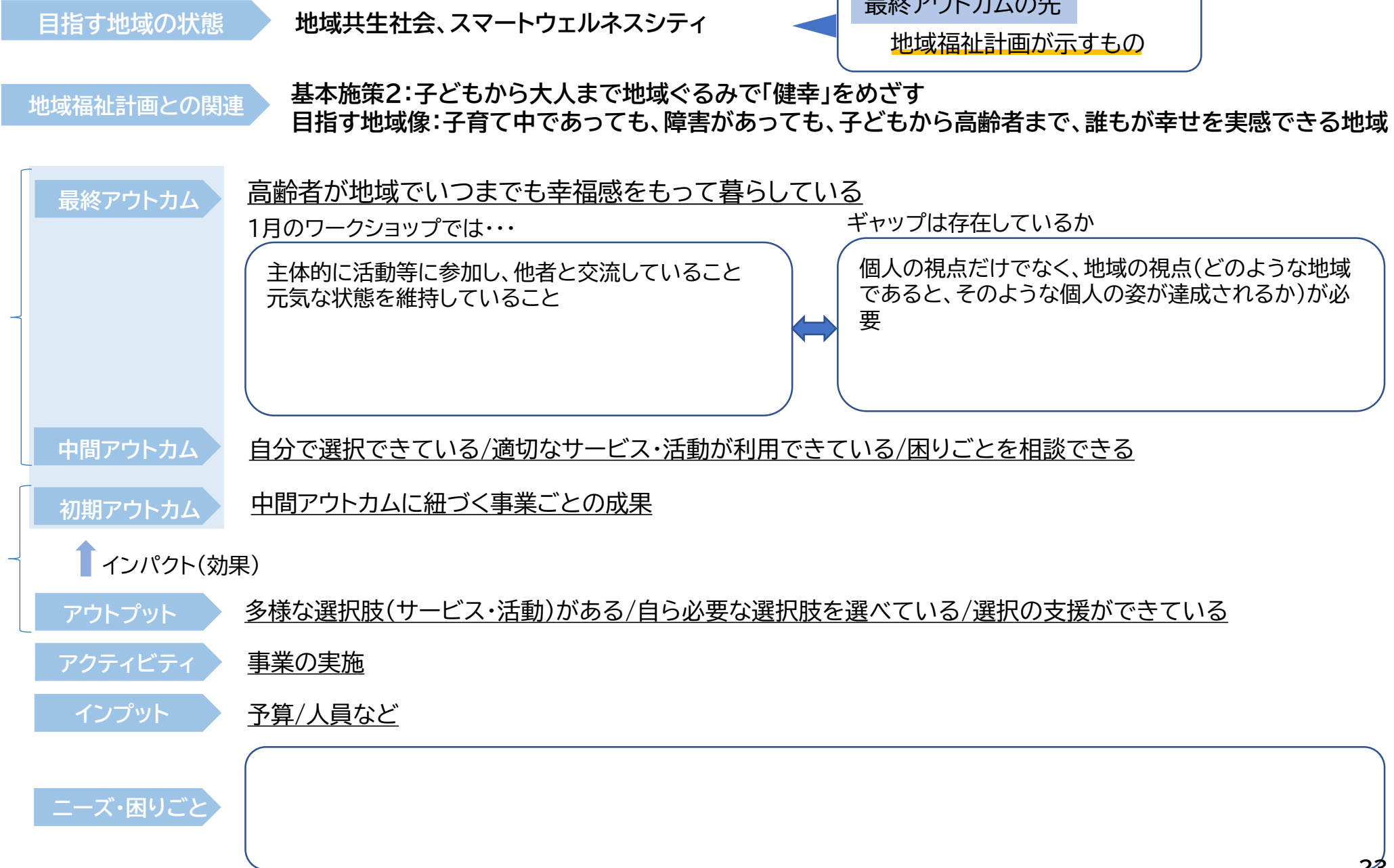
KGIやKPIをどの程度地域福祉計画で管理すべきか？
→細かい指標は個別計画で管理すべきと考えている

※現在のイメージ

- 中間アウトカム以下を事業に分解。対象者別に分解して、KGIとKPIを設定。
- 詳細なロジックモデルは個別計画に落として、地域福祉計画では簡易的なロジックモデルを作成。(データは持つておく)



(参考)1月委員会時のワークショップシート①(高齢者のフレイル予防)



(参考)1月委員会時のワークショップシート②(障がい者の差別解消)

